

石仏すとん・さーくる

No.86

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2013年12月30日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941
ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

二十周年記念事業を終えて

新潟県石仏の会会長 星野 紀子

当会創立二十周年記念事業の大きな柱となつた「石仏の力」展も十一月二十四日に盛会のうちに終了し、十二月六日には、各地域からお借りした石仏をはじめとする関連資料の返却も無事終わりました。

また、十一月十七日に行われた二十周年を祝う祝賀会も、多数の会員のご参加ご来賓の方々のご列席で、楽しく心温まる会となりました。

これもひとえに会員の皆さまのご協力と地域に根ざした活動の賜物です。心より感謝申し上げます。

先人たちの願いや祈り、悲しみなどを受け止めながら、地域の人々と共に生きてきた石仏たちは、見知らぬ場所に移されて、どんなにか心細かったことでしょう。それでも、自分たちの祖先の歴史や文化を小さな体で健気に語り続けてくれました。それは、石仏にあまり関心のなかつた方々の心をも大きな「ちから」で包み込んでくれました。

最終日の会場に凜として佇む石仏たちの姿は、とても清々しく、また愛おしく思えて、胸が熱くなりました。

大きな反響のあった「石仏の力」展、会員手作りの祝賀会、「新潟県石仏の会 二十年のあゆみ」の発行と、どれ一つ取っても、会員の皆さまのお力がなければできなかつた事業です。ここに記して御礼申し上げますとともに、今後も新潟県石仏の会が地域の歴史の中で歩んでいくことを願つております。



祝賀会参加者に挨拶する星野紀子会長

「石仏の力」展を終えて

長岡市 大 樂 和 正

九月二十一日から開催した「石仏の力」展が十一月二十四日に閉幕しました。会期中の観覧者数は、延べ五十五日間で九一七二名。一五〇〇部刷った展示図録は、図書館等への発送分四十五冊を除き、完売となりました。石仏にあげられた賽銭は、二四六八円にのぼりました。一万円達成には一步及びませんでしたが、展示をご覧いただいたお客様の反応を含め総合的に自己評価すると、観覧者数の数值以上に意義のある展覧会であったと思っています。展示立案から実施に至るまで会の皆さまには、紙面を拝借して心より感謝申し上げます。

自分の至らなさから、開催初日を迎えるまで何度も立たされましたが、現在は展覧会を無事に終えることができ、ほっと安堵の胸をなでおろしています。今振り返ると、さまざまなもの想いがよみがえってきますが、ここでは展覧会準備や会期中に感じたことを展示担当者の目線から記します。

親しみのある展示へ

今回の石仏展は平成二十三年度から計画準備を始め、研究会を何度も開催して展示構成や出品資料の検討を重ねてきました。研究会の中で出された意見として、親しみのある展示にして欲しいという意見がありました。それを受けて展示のプロローグを「お地蔵さんのチカラ」というコーナーに変更し、身近な存在で石仏の代名詞ともいえる地蔵を取りあげました。地蔵の資料選定で最も苦慮したのは、展示室入口にどのような地蔵を展示すれば観覧者に親しみを感じていただけるか



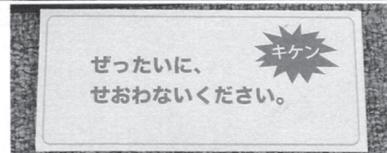
「お地蔵さんのチカラ」プロローグ

石仏と触れあい語らう

親しみのある展示とも関連しますが、今回の展示では石仏ができるかぎりガラスケースに入れずに露出展示したことも特徴です。石仏に直接触れてもらい、その魅力を近くで実感して欲しいという意図がありました。展示物の中には不安定な石仏もあり、その注意書きには少し工夫を凝らしました。たとえば、盆踊りで背負つたとされる佐渡の地蔵

でした。当初は入口に笠地蔵や六地蔵を展示する予定でしたが、いざ候補に当たつて現地へ赴くと頭部が欠けたものや、移動できないものばかりでした。最終的に展示した十体の飴地蔵（上越市板倉区別所）も糸余曲折を経て、やつと決定したものです。柔軟な顔の飴地蔵は、塗られた飴によって黒ずんだ口元と、赤い頭巾とよだれかけが印象的でした。これであれば親しみを感じてもらえるのではないかと直感がはたらきました。石を素材とする石仏は地味に映るものばかりですが、現地に飾られた五色の奉納旗を地蔵の背景に垂れ下げたことにより、導入部分で少し華やかな演出を加えることができたと思っています。

でした。当初は入口に笠地蔵や六地蔵を展示する予定でしたが、いざ候補に当たつて現地へ赴くと頭部が欠けたものや、移動できないものばかりでした。最終的に展示した十体の飴地蔵（上越市板倉区別所）も糸余曲折を経て、やつと決定したものです。柔軟な顔の飴地蔵は、塗られた飴によって黒ずんだ口元と、赤い頭巾とよだれかけが印象的でした。これであれば親しみを感じてもらえるのではないかと直感がはたらきました。石を素材とする石仏は地味に映るものばかりですが、現地に飾られた五色の奉納旗を地蔵の背景に垂れ下げたことにより、導入部分で少し華やかな演出を加えることができたと思つています。



レプリカ「ねまり地蔵」と注意札

現地で石仏を眺める時と同じように、しゃべりたいに、せおわないでください」と表示しました。そのほかにも「たいせつにしてください」などと表示して、できるだけ「さわらないでください」という言葉を使わずに、やさしく触れてもらえるよう配慮のある行動を促しました。

お客様から寄せられたアンケートでは、ガラスケース内に並べられた仏像の展示とは異なり、石仏らしい温もりのある展示で良かったという趣旨の意見がいくつありました。改良すべき点としては、展示物の位置が低すぎるという意見が多く寄せられました。小さな石仏について演説台の上に置いて高くしましたが、は演説台の上に置いて高くしましたが、現地で石仏を眺める時と同じように、しゃべりたいに、せおわなください」と表示しました。

本展覧会の実現は当会員でもある石工の鈴木悟司さんの協力を抜きには語れません。鈴木さんからはたくさんのチカラをいただき、さまざまな新しい試みを実現することができました。ポスターのタイトル文字も鈴木さんの揮毫によるもので、タイトルにふさわしい力強いポスターに仕上りました。また、柏崎のねまり地蔵の大きさや迫力を何とか展示で表現したいと頭を悩ませていたところ、鈴木さんがそのレプリカ製作を快く引き受けてくれました。柏崎に長期間滞在して作っていただき、実物と比べても遜色がない立派な作品を展示室内で紹介することができます。業者に依頼すれば数百万円の製作費がかかったことを考へると、感謝の念に堪えません。そのほか、「心で石仏づくり」の体験講座や製作実演、ミュージアムショッピングでの石仏作品販売、村上市周辺の資料運搬など、鈴木さんにはさまざまな面で多大な協力をいただきました。

がんで石仏を見て欲しいという思いがありました。観覧者には少し窮屈な姿勢を強いたかもしれません、しゃがんでじっくりと鑑賞し、石仏との対話を楽しんでいただけたかと思っています。

鈴木悟司さんのチカラ

約二ヶ月にわたって展示させていただいた石仏は、十二月六日をもって全てを返却しました。展覧会による効果や気運の高まりというのは、どうしてもその場かぎりのものになってしまう傾向にあります。石仏はこれからも地域の人びとのつながりを深め、自分たちが暮らす地域の歴史や文化を知る恰好の素材となるはずです。これからも石仏の会の皆さんとともに、石仏の力を最大限に引き出し、その魅力を広く発信できたらと考えています。

近年、小千谷市や見附市、十日町市（松代・松之山地区）、三条市（下田地区）、出雲崎町などでは石仏調査が進められています。小千谷市では今年度の報告書刊行を予定し、十日町市では来年度に石仏をテーマとした展覧会を開催するそうです。当館においても、今回作成した石仏データベースがより充実した内容となるよう引き続き整備を進めていきたいと考えています。

なお、来年度は当館を会場として、鈴木悟司さんの作品展を野外で行う予定です。鈴木さんの独創的で愛らしい作品が野外に一堂に展示されるはずです。ご期待ください。

これから展望と課題

安曇野道祖神めぐりの旅に参加して

津南町 桑原和位

「よろず願ごと引き受けます 道祖神」
のチラシに誘われて安曇野市豊科郷土博物館の「お祭り展」見学に参加した。

安曇野の道祖神探訪は、過去三回ほど出かけている。今回で四度目である。

なんで安曇野の道祖神に惹かれるのかわからない。像容の美しさなのか、双体像の彫なのか、解説者の語りの妙なのか、安曇野地方の魅力かななどと考えてみたがどうもそうではないらしい。

何回も同じところに出向くのは安曇野の道祖神だけではない。そこに石造物があり、お誘いがあつて楽しめるからではないか。そこに地域の祈りがあり、人の心の風景がある。これではないかと思う。

博物館の入口に御柱が立っていた。玄関先では道祖神が迎えてくれる。中に入ると藁と竹で作られているという御柱が所狭しと並んでいる。

「道祖神に何願う」の案内板の文字が目に飛び込んできた。

道祖神祭りや道祖神にはさまざま願いが込められています。冬の終わり、春

を先駆けて咲く花で安曇野の景色が色づき始める、少しでも早く農作物が芽吹くよう道祖神に色を塗るお祭が行われます。道祖神の前で酒を酌み交わすだけの素朴な道祖神祭りもあります。

さまざま願いが掛けられた道祖神を見てみましょう。とある。

道祖神祭りに使われた御神木やお流し、川口の差回しなどが並ぶ。祈りの違いを教えてくれる。お祭りの飲み食いに使われた膳椀や道具も並んでいた。

博物館見学後、等々力地区の道祖神探訪で案内された。

安曇野のマンホールの蓋に道祖神が刻まれている。その上を人も動物も自由に踏みつけていく。これも道祖神への祈りの一つであろうか。「よろず願いごとを引き受けてくれる」傍後に立つ道祖神が大きく見えた。



道祖神展の看板

栃尾の道祖神を堪能 —中越地区見学会報告—

柏崎市 渡邊三四一

前日に県博で倉石忠彦先生の「道祖神と性器形態神」の記念講演を聞いたばかりであった。道祖神には陰陽の性器を象った神像が多くあり、何故、それが道祖神として信仰されるようになつたかを全国各地の事例を通じて検討された。ここで倉石先生はもともと男根女陰の奉納物が性器形態神へ展開したのではと興味深い説を提示された。私にとって大変刺激的なお話であった。

翌十月二十一日（月）は、そうした性器形態神としての道祖神の宝庫といつても過言ではない栃尾の見学会であつた。これは日本石仏協会との共催で行われたが、双方あわせて三十五名ほどの探訪会となつた。

秋葉神社の石仏群を見学し、いよいよ午前の目玉である下米伝のほどれ様に向う。何度も訪れているが、いつもながら林立する男根石や双体道祖神には圧倒される。ふと御神木の大杉に目を向けると、何やら見慣れぬ石がぶら下がつていた。よく見ると二十五cmほ



ほだれ様と穴あき石

どの自然石に穴が開けられている。ふつ

う県内の道祖神に奉納される穴あき石は、耳神信仰のキンカ様へのそれである。しかし昨日、倉石先生の刺激的な講演を聞いたばかりの私は、直感的にこの穴あき石を子授けや安産に関わる祈願石とみた。ほどれ様に奉納されるべきは子授け・安産祈願の穴あき石であろう。今後改めて確認調査をしたいと考えている。

山菜づくしの美味しい昼食を済ませ、

兄妹婚伝承の双体道祖神（入塩川）等を見学した後、上櫓出へ向う。ここには泥製の巨大な男根を誇るチヨンボ地蔵が毎夏作られる。着くと、村びとが私たちを出迎えて下さり、心和む交流が持てた。実に柄尾の性神を堪能した一日であった。案内役の深滝純一氏・星野紀子氏に深く感謝申し上げます。

すぐ隣の夏渡戸の集落は全戸で七軒で

最初に熊渡のショウウキ様に参拝した。正鬼神社とよばれるお堂の外に祀られており、全長二mをこす巨大なお姿であった。説明書きには「病治しの藁」をショウウキ様の身体に埋め込み病気の平癒を祈願したとあつた。熊渡の上流にある大牧のショウウキ様は磐越西線の線路を越えた高台のお堂に安置されていた。二m、重さ四百kgの堂々としたお姿であつた。

午前の見学はここまでとして午後は平瀬のショウウキ様を参拝した。全長二・五m、二百五十kgのお姿が立派であつた。言い伝えによると、平瀬のショウウキ様は「荒神様」といわれ、お祭りの日には天候が悪く吹雪く日になるという。吹雪がさると春が来るというのである。

津川のショウウキ様めぐり

阿賀野市 岩野笙子

十一月七日九時三〇分に参加者十三名が新津駅に集合し、津川地区のショウウキ様めぐりに出発した。ショウウキ様は初春に作成される藁人形で五か所の集落ではムラにもたらす魔よけの行事として信仰されている。



武須沢入のショウウキ

ある。夏渡戸のショウウキ様は男女一対の二体が上と下に祀られていた。全長一・五m、三十kgの小ぶりながら、二体でムラの上下を守る姿は印象的であった。女のショウウキ様とは初めての対面であった。

ショウウキ様の設置は毎年、上下をいれかえるという。最後は武須沢入のショウウキ様に参拝した。全長一・五m、五十kgのショウウキ様は牧野集落の入り口のお堂に祀られていた。お堂の前に百万遍の数珠が掛けられており、完成したショウウキ様の前で百万遍を唱えたという。

それぞれの土地のショウウキ様に、それぞれの表情があつたが、共通点は現在もムラ人の信仰を一心に集めている大切なムラのシンボルだということである。

事務局だより

■「創立20周年記念」石仏フォーラム・祝賀会を開催しました

去る十一月十七日(日)、当会創立20周年記念事業の締めくくりとして、石仏フォーラムと記念祝賀会が開催されました。

石仏フォーラムは新潟県立歴史博物館を会場に、午前は「石仏の力」展見学(参加四七名)、午後は同展記念講演会の野本寛一先生(近畿大学名誉教授)による「石と日本人—底流する心意伝統をさぐる」を聴講(参加五八名)。祝賀会は会場を長岡グランドホテルに移し、会員四六名と来賓八名の参加を得て四時半から賑やかに二十歳の賀を祝う式典が始まりました。

日本石仏協会会长・坂口和子氏より祝辞を頂いた後、星野会長より前会長の荒



感謝状授与式と瞽女唄披露

井昭氏と永年多額のご寄附を賜った神戸市の岡田幸能氏(当日欠席)に感謝状が贈られ、荒井氏から胸迫るお礼の言葉がありました(岡田氏からは後日ご丁寧な礼状を頂きました)。

続いて新潟県民俗学会会長・佐藤和彦氏の乾杯のご発声により祝宴となり、講師の野本寛一先生や國學院大学教授・小川直之先生のスピーチ、特別出演で葛の葉会・金川真美子さんの瞽女唄や実行委員会による二十年の歴史を振り返るスライドショーを楽しんだ後、県立歴史博物館館長・中島太郎氏による一本締めを持つて、この記念すべき祝宴は大団圓となりました。実行委員の皆様に感謝します。

■新入会員

武田辰夫氏(新潟市)、野内隆裕氏(新潟市)、田中文明氏(出雲崎町)

なお新年度からは新たに十二名が入会予定です。

■同封資料について

今回の会報に企画展図録『石仏の力』正誤表と会員・鈴木悟司氏の「心で石仏づくり」体験講座のチラシを同封しました。「石仏の力」展で大好評だったワークシヨップの出前講座です。ご支援のほど。

「穂高の彩色道祖神祭り」見学会案内

安曇野・穂高では毎年子ども達が道祖神に色を塗り、色鮮やかなハナを各戸に配る行事が行われます。北アルプスの麓

で当地独特の道祖神祭りを見学します。初日午後は歴史薫る上田市を周遊予定。

期日 二〇一四年一月一日～二日(土・日)
集合 ①午前七時 柏崎駅南口 ②同八時 長岡駅東口(コンビニ前)

③同九時 上越リージョンプラザ前
会費 二五〇〇円位(宿泊・バス代等込)
定員 二十五名(中型バス貸切)
申込 一月十六日(木)までに事務局(渡邊)へFAXかハガキで。



穂高田中の道祖神祭り

◆編集後記◆

大きな節目の年が終わりました。新年度からは沢山の新しい仲間を迎え、また次なるステップへと前進です。よいお年を。